序　章　「藩」・大名研究の沿革と本書の構成……一
はじめに……一
一　「藩」・大名研究の現状……三
二　「藩」・大名研究の画期……四
1　第一期（戦前～一九七〇年代）……四
2　第二期（一九八〇年代～現在）……六
三　「藩」・大名研究の課題……七
四　「藩」・大名研究の展望……九
1　「藩」研究の展望……一〇
2　大名家研究の展望……一〇
五　分析対象の概観……一三

六　研究の課題と構成……一七
1　分析課題……一七
2　全体の構成……二〇
第一章　越後騒動とはなにか……二七
——御家騒動・改易・大名家の連続——
はじめに……二七
一　家臣団の構成の変化にみる越後騒動……二九
1　使用する分限帳の紹介と年代の推定……三〇
2　各分限帳の分析……三三
二　津山藩再興と幕府政治……四〇
おわりに……四四
第二章　近世の「大名預」と「御家」・大名親族集団……五一
はじめに……五一
一　越後騒動の第一審——「大名預」……五二
1　永見大蔵の事例——長門萩毛利家……五四

2　片山外記の事例――伊予宇和島伊達家……五八
二　越後騒動の第二審――「大名預」と遠島……六一
1　小栗大六の預けと切腹――備前岡山池田家……六三
2　小栗兵庫子息の預け――陸奥仙台伊達家と肥後熊本細川家……六七
3　松平綱国の預け――備後福山水野家……六九
4　永見大蔵の遠島、その後――長門萩毛利家……七五
おわりに……八〇
第三章　大名改易における藩領処理……八七
――史料論的アプローチ――
はじめに……八七
一　家産の文書化……九二
1　藩領処理の担い手……九二
2　藩領処理の実態……九三
二　城引き渡し時の文書作成……九九
1　城内諸道具の目録化……九九
2　諸道具の分散……一〇三

おわりに……一〇六
第四章　在番大名の支配構造……一一一
——幕藩権力編成の一視点——
はじめに……一一一
一　在番時代の概要……一一三
1　高田藩領から幕領へ……一一三
2　在番大名の変遷と大名家の特質……一一四
二　在番大名相馬家と秋田家……一一七
1　高田への出立前夜……一一七
2　前任在番大名からの引き継ぎ……一二〇
3　在番大名の職務……一二三
4　後任在番大名への引き継ぎ……一二五
おわりに……一二八
第五章　大名家家臣団の再編成とその構造……一三一
はじめに……一三一

一　家臣団の再編成過程とその特質……一三四
1　譜　代……一三五
2　古参・古参御取立……一三六
3　新参・新参御取立・士分新参並・新参御役人・御役人……一三九
二　家臣団再編成の諸段階とその構造……一四二
1　柳原時代……一四三
2　宝永五年の段階……一四五
3　家臣の登用と昇進・罷免……一四八
おわりに……一五〇
第六章　近世大名の無嗣逝去と藩の対応……一五七
——五万石の減知と家臣の削減——
はじめに……一五七
一　二代藩主浅五郎の急逝と五万石の減知へ……一五八
二　家臣数の削減と組織の改編……一六三
1　家臣の召し放し……一六三
2　家臣数削減の実態……一七一

おわりに……一七四
第七章　近世大名の「御家」意識と大名間秩序……一七九
——将軍家の血の流入と由緒——
はじめに……一七九
一　将軍家の血の流入とその恩恵……一八一
1　将軍家の血の流入……一八一
2　将軍家の血の恩恵……一八三
3　家臣の増加……一九二
二　松平斉民の旧領復帰運動と「越前家」という由緒……一九二
1　斉民の旧領復帰運動……一九三
2　「越前家」とはなにか——問われる由緒……一九七
おわりに……二〇〇
第八章　十九世紀の政権交代と武家官位……二〇六
——官位叙任一件を素材に——
はじめに……二〇六

一　近世の津山藩主と官位……二〇七
二　松平慶倫の正四位下昇進一件……二〇九
1　武家官位の叙任手続き……二一〇
2　武家官位の「価格」……二一六
3　「長防追討」と武家官位……二二一
三　「御一新後、初而」の武家官位叙任……二二三
1　松平康倫の従四位上叙任手続き……二二四
2　武家官位の「価格」……二二九
おわりに……二三一
終　章　近世大名の「家」戦略と近代への展望……二三六
1　近世大名の「家」戦略……二三六
2　大名改易論の再構築……二四一
3　近代への展望……二四三
あとがき……二五三